

越野運送社長
越野 泰弘
(55)

イタリア車に魅せられ

運転していて楽しいことがクルマ選びの第一条件。父親のお古を「卒業」して22歳の時に初めて買ったのが、いすゞ・ピアッツァ、それもホットバージョンのイルムシャーだった。

3年ほど乗って日産・フェアレディZに乗り換えた時は、エンジンは3000ccのターボ付きを選んだ。足回りをはじめ、マフラーやエンジンまで入念にチューニングしたのが懐かしい。

その後、「憧れのイタリア車」と、手頃なアルファロメオ・155を購入。エンジンはV型6気筒を選び、初めて味わうイタリア車特有の少し乾いた排気音に魅せられた。

数年前、知り合いのディーラーから「いいクルマが入った」と連絡が。待っていたのはマセラティ・クワトロポルテだった。優美なスタイルでありながら、アクセルをグッと踏み込むと、獣の咆哮ほろこおのような排気音を残して猛然とダッシュする。その爽快な運転感覚の虜になり、即決で購入した。

現在は、更にホットなV型8気筒、4700ccエンジンを搭載したマセラティ・グランツーリスモ MCストラダレに乗っている。イタリア車にはクルマ好きの本能を刺激する独特の魅力がある。

マセラティ
グランツーリスモ
MCストラダレ

息子は、ハイブリッドカーに乗っている。運転してみたが、何だか電気仕掛けの機械に操られているようでつまらない。「やっぱりクルマは、エンジンの機械音や排気音、オイルの臭いがして、『この手で機械を操っている』という感覚が無い」と、暇を見つけてはドライブを楽しんでいる。(大阪市都島区)

